

ナチュラルヒストリーに根ざした山岳科学教育拠点

筑波大学山岳科学センター

第1期の拠点共同利用（公開実習・受託実習・研究指導）を継続しつつ、山岳科学センターへの組織拡大を生かし、教育内容の高度化・広範化、運営面の強化を実施

教育内容の高度化

- ・フィールドIT技術の活用
教育ソフトウェア「イキモンGO」の実践導入
- ・課題探索型アクティブラーニング
- ・研究体験型実習(大学院)
林冠タワーの活用
- ・山岳科学学位プログラムとの連携(大学院)
他大学のフィールドも活用

教育内容の広範化

- ・「森と草原の生物多様性」→「山岳科学」へ
生物学に加えて、地球科学・環境科学・農林学の4分野にまたがる公開実習を配置
学部レベル:大気科学野外実験、森林流域実習など
大学院レベル:環境フィールド実習、山岳科学フィールド実習など

運営面の強化

- ・学生支援
アンケートに基づく環境改善
アレルギーへの食事対応
- ・安全管理
実習前安全講習の実施
安全設備の整備
- ・広報の強化
プロデザイナーとの協働など

共同利用の内容

1 公開実習

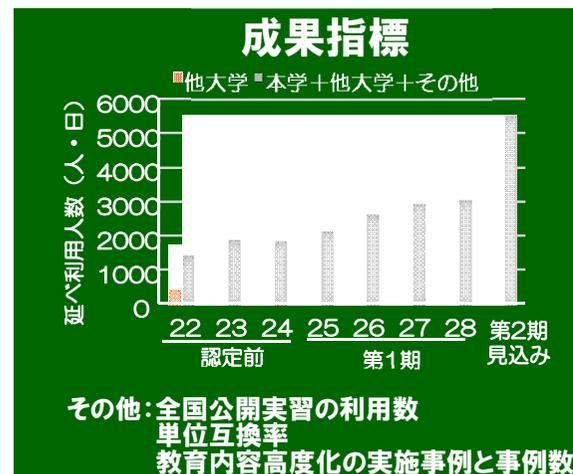
- ・全国の国・公・私立大学の学部生・院生に公開
- ・学部生向け・院生向けそれぞれの実習科目を開講
- ・授業料は不徴収
- ・一部実習は、下田センターや山岳学位プログラムと連携して実施

2 受託実習

- ・他大学等や筑波大学が正課として開講する受託実習の受入
- ・センター教員等のサポートの提供が可能

3 研究指導

- ・他大学の卒業研究、修士・博士論文研究のための施設利用が可能
- ・センター教員との共同での研究指導も可能



山岳科学センターのフィールド

